

車いすの修理とシーティング技術講習会

新潟医療福祉大学 Flying Wheelchair Supporters (FWS)

〒950-3198 新潟県新潟市北区島見町1398番地

助成事業の概要

現状として先進国以外の国での車いすが不足している。日本で使われなくなった車いすを日本で修理し、発展途上国のアジアに寄贈、現地で車いす修理ボランティアを行うことを目的とする。

具体的に、以下の3つを目的として本事業を行う。

1. 日本から海外に送った車いすの点検、修理。
2. 現地の方による自立した車いす使用の実現の支援。車いすの取り扱い方や、点検の方法などを伝える。
3. 利用者、利用者家族、環境に合わせた処方した車いすの寄贈。

今回は、2018年8月17日（金）－8月21日（火）に台湾で実施。

この活動では車いすの修理技術だけでなく、大学にて身体評価や障害、利用者や周囲の環境に赴き環境を把握したうえで、利用者個人の要望や身体状況を確認し車いすを適合、使用してもらい車いすの説明や操作方法をサークルメンバーが実演しながら伝える。

事業の成果

私たちは空飛ぶ車いすサークル（FWS）という、中古の車いすを修理して海外へ寄贈するという活動を行っている。今回台湾では現地の障害者施設と福祉施設に訪れた。施設に訪れた際には、実際

に車いすを使用している様子を見たり、施設の方に修理方法や使用時の注意の質問に答えるなどをした。

現地の方とは、日本語や通訳の方を通してコミュニケーションをとり積極的にかかわった。

活動1日目は、介護施設で参加者全員と協力して修理をした。

活動2日目は、別の介護施設で施設内の車いすを修理した。

活動3日目は、介護施設と福祉用具センターに分かれて修理した。

このプロジェクトで得られた成果については、修理をしている中で技術や方法を学ぶことにあった。神奈川工科大学KWRの方や韓国からの参加者の方が効率の良いやり方を多く学べた。また今後、それを様々な人に教え、より多くの方に車いすの修理方法や操作方法を知ってもらうことが今後の目標だ。

車いすを寄贈するにあたって利用者と私たちとの車いすについての価値観の差があった。私たちは、利用者の方一人一人に適合しさらに移動しやすい車いすに乗ってほしいと思っている。それにより、二次障害の合併を防ぎ、症状の悪化を防ぐことができるからだ。しかし、利用者の方は、車いすは「簡単に移動ができ楽なもの」という考えが見受けられた。この改善をするために正しい知識を伝えることが大切だと感じ、今後の活動につなげたい。

■ 成果の広報・公表

1. サークル内での活動報告（10月）
2. 新潟医療福祉大学オープンキャンパスで高校生向けの活動報告
3. 本大学で開催された学会の会場内で報告（10月下旬）
4. 健康フェアにて活動報告（11月中旬）

■ 今後の展開

地道な広報活動のおかげでFWSの活動を知る方が一般の方々の間でも次第に増え、「うちで使わなくなった車いすを寄付したい」と希望する方も以前より多くみられるようになった。活動に協力していただけるまわりの方々の期待や願いにも応えられるように、自分たちの行なっていることに誇りと責任をもってより一層努力していきたい。

自分たちが修理・点検した車いすを必要としている場所へ届けに行くと、利用者は皆喜んでくれるが、国内外ともに、車いすに対する考えは未だに「移動が楽になるいす」が多く、車いすと身体との適合の重要性までは深く考えられていないように思われる。ただ修理した車いすを渡しても、利用者の身体に適合したものでなければ、車いすの機能はわずかしか発揮されない。適合をおろそかにしないために、車いすを寄贈する側である私たちも一人一人技術と知識を向上させなければならない。

今後は今までに赴いた国内外以外でも、他に車いすを必要としている地域への訪問も考えているが、私たちの活動目的を見失わないように車いすの修理・点検・適合に取り組んでいきたい。また、この活動を通じて、これからFWSを引き継いでいくメンバーや車いす利用者、地域の方々にも車いすに対する正しい知識を伝えていきたい。